

開館20周年記念展

ドロッカー・コレクション 珠玉の水墨画

「マネジメントの父」が愛した日本の美

Masterpieces from the Sansō Collection:

Japanese Paintings collected by Peter F. and Doris Drucker

2015.5.19.tue — 6.28.sun

休館日＝6月1日（月）

開館時間＝10:00-18:00 [毎週金・土曜日は20:00まで] ※入場受付は閉館の30分前まで

主催＝千葉市美術館／日本経済新聞社 後援＝アメリカ大使館 特別協賛＝山崎製パン株式会社 協賛＝イオン株式会社 特別協力＝The Sanso LLC

協力＝The Ducker Institute at Claremont Graduate University／日本航空／ダイヤモンド社／三井ガーデンホテル千葉

観覧料＝一般1200（1000）円／大学生700（500）円

※小・中学生、高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

※（ ）内は前売券、団体20名以上、および千葉市内在住65歳以上の方の料金

※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ（5月10日まで）、ローソンチケット（Lコード:31366）、セブンイレブン（セブンチケット）、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口（6月28日まで）にて販売

巡回先：長野県信濃美術館（07/11-08/23）、山口県立美術館（10/30-12/6）

**DRUCKER
INSTITUTE***

展覧会概要

経営学の泰斗にして、「マネジメントの父」とも呼ばれる、ピーター・F・ドロッカー（1909～2005）。世界の企業人に多大な影響を与えてきただけでなく、その幅広い専門領域と未来への洞察によって、没後10年の今ふたたび関心が高まっています。

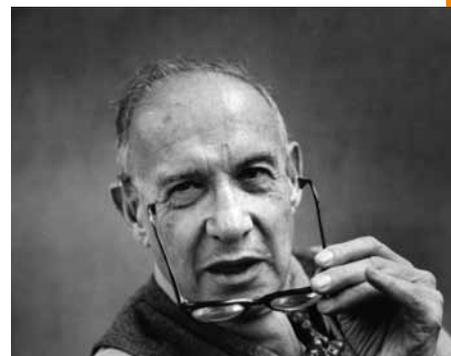
そのドロッカーが、若き日から日本の古美術に深い愛情を寄せ、初来日の1959年からは、熱心に作品の蒐集もしていたことをご存知でしょうか。それはマネジメントに関するコンセプトのほとんどを生み出すという功績を築きあげた時期に重なります。自身により「山荘コレクション」と名付けられたそのコレクションは、稀少な室町時代の水墨画を主とする点、大変珍しく個性的なものですが、さらに、桃山時代の武人画家海北友松や、江戸時代の池大雅や浦上玉堂などの文人画、白隠などの禅画、伊藤若冲や琳派の作品も含まれています。

人口当たりでは最大の読者を持ち、特に影響が大きく深かった日本。しかしこれまでのさまざまな“ドロッカー学”の中でも、美術コレクションが意味したものについての考察は、未開拓の分野であったと言えます。

本展は、知られざる存在となりつつあった本コレクションを改めて調査し構成した、初公開作品を含む111点の里帰りとなるものです。コレクションの軌跡をたどり、ドロッカーその人への関心と彼が美術を通じて見た日本という視点を加えながら、新たな切り口で作品の魅力をご紹介します。

■ピーター・F・ドロッカー略歴

- 1909年11月19日 オーストリア・ウィーンに生まれる。
- 1931年 フランクフルト大学にて法学博士号取得。
- 1933年 イギリス・ロンドンへ移住。銀行員として働く。
- 1934年 日本美術と出会う
- 1937年 ドリス・シュミットと結婚、アメリカ合衆国へ移住。
- 1939年 処女作『経済人の終わり』を発表。
- 1969年 『断絶の時代』発表。
- 1959年 初来日。日本美術の収集がはじまる。
- 1971年 カルフォルニア州クレアモントに移住。
- 1973年 『マネジメント—課題・責任・実践』発表。
- 1979年 自伝『傍観者の時代』発表。
- 1986年 「水墨画名作展：ドロッカーコレクション」が根津美術館などで開催。
- 2005年11月11日 満95歳でクレアモントの自宅にて死去。
- 2014年 ドリス夫人が死去。



正気を取り戻し、世界への視野を正すために、

私は日本画を見る——

Peter F. Drucker (1909-2005)

見どころ

・ドラッカーが恋におちた日本美術

1934年ロンドン。雨宿りのため偶然迷い込んだ日本美術展で、ドラッカーは日本美術と出会いました。その後幾度も話題に出されるこの劇的な出会いによって、ドラッカーは日本美術へと傾いていきます。1959年の初来日から1980年代にかけて日本を訪れては日本美術を収集し、コレクションを増やしていきました。

・ここでしか見られない室町水墨画

ドラッカー・コレクションは、希少な室町時代的水墨画を収集のメインに据えている大変個性的なものです。なかでも、本コレクション以外にあまり作例を見いだせず、作品としても質の高い室町時代のすぐれた逸伝の水墨画家たちの作品が多く含まれているのが特徴です。

・雪村、白隠、若冲…先見の明で選ばれた画家たち

ここ数年注目を集めている雪村や白隠、若冲といった個性的な絵師もドラッカー・コレクションには少なからず含まれています。1970年代を中心とする、まだこれらの絵師たちが今のように発見される前からドラッカーは自らの目で選びだしていました。経営や社会に対する洞察だけでなく、美術コレクターとしても先見の明を発揮して集められた作品群となっています。

・他のコレクターとドラッカーの違い

ドラッカー自身が「人口を鑑みれば日本ではアメリカの2.5倍売れている」と言うほど日本はドラッカー本の最大の読者層をもち、それはひとえにドラッカーが日本美術を通して日本観を培い、著作にも生かされているためでしょう。海外には多くの日本美術コレクションがありますが、ドラッカーにとって、美術コレクションはただの趣味ではなく、「正気を取り戻し、世界への視野をただすために、私は日本画を見る。」という言葉を残しているように、自らの洞察を深めるために必要なものでした。

・千葉市美術館とドラッカー

今年開館20周年をむかえる千葉市美術館とドラッカーの没後10年という節目を記念して企画されました。水墨画研究を専門とする当館館長・河合正朝はドラッカー氏とゆかりがあり、館長就任時よりあたためてきた企画でもあります。初公開作品を含む111点とゆかりの品々や資料をご紹介します、ドラッカーの目を通じて日本美術を探るといふ本展、おそらく最初で最後の試みとなるでしょう。

関連企画

■ 記念講演会 (要申込)

1 “Adventures of The Collectors' Bystander”

(「わがコレクター父母の傍観者としての時代」)

講師：Cecily Drucker セシリー・ドラッカー

(ピーター&ドリス・ドラッカーの次女/弁護士)、通訳付

6月6日(土) 14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて 定員150名 聴講無料

2 「ドラッカー・コレクションの魅力—経営学と水墨画」

講師：島尾新(学習院大学教授)

6月14日(日) 14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて 定員150名 聴講無料

■ ワークショップ (要申込)

3 「カラダに^まづく まあるい世界」

開館前の展示室で、絵に囲まれつつ、体と対話。

日曜日の朝活は、体ほぐしから—

指導：禪學佳秀(愚尚庵庵主)

5月31日(日) 8:30~(約1時間) 展示室にて/15名程度/

参加無料(要別途観覧料)

(詳細は当館ホームページへ。動きやすい服装でご参加下さい。当日についての詳細は参加者にお知らせします。)

【申込方法】

往復はがきに郵便番号、住所、電話番号、氏名、参加希望のイベント名、人数(各2名までお申込可)を明記の上、

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 千葉市美術館 イベント係

までお送りください。※お申込は、はがき1通につき1イベント、締め切りは、

1▶5月27日(水)、2▶6月4日(木)、

3▶5月22日(金)必着。申込多数の場合は抽選。

■ 市民美術講座

第1回

「逸名の室町水墨画家たち—ドラッカーさんの愛した墨絵の世界」

講師：河合正朝(当館館長) 5月30日(土)

第2回「ドラッカー・コレクションの軌跡」

講師：松尾知子(当館学芸係長) 6月20日(土)

いずれも14:00より(13:30開場予定) 11階講堂にて

先着150名 聴講無料

■ ギャラリートーク

担当学芸員による—5月20日(水)14:00より

ボランティアスタッフによる—

会期中の毎週水曜日(5月20日を除く)14:00より

※水曜日以外の平日14:00にも開催することがあります。会場の混雑状況により中止となる場合があります。

同時開催

千葉市美術館開館20周年記念

歴代館長が選ぶ 所蔵名品展 第2部 5月19日(火)～6月28日(日)



記者レクチャー

報道関係の皆様を対象に、披露説明会を行います。スライドレクチャーにて作品の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

5月19日(火) / 14:00より(1時間程度) / 10階会議室にて(その後、8・7階展示室へご案内いたします)

参加ご希望の方は同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。

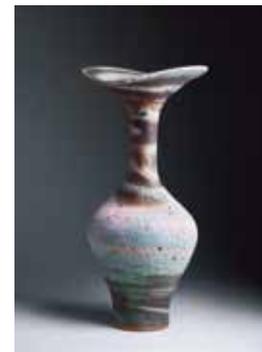
次回展予告

開館20周年記念

没後20年 ルーシー・リー展

7月7日(火)～8月30日(日)

ウィーンに生まれ、後にロンドンで活動した陶芸家ルーシー・リー(1902-1995)は、モダンかつ情緒豊かなうつわの様式を打ち立て、世界的に高く評価されてきました。本展覧会では、そのスタイルが形成されていく過程で作られたさまざまな様式の変貌、そして大成されたルーシー・リー様式の魅力を約200点の作品で紹介します。



ルーシー・リー 《スパイラル文花器》 個人蔵
Estate of the artist 撮影：大塚孝雄

交通案内

千葉市美術館

〒260-8733 千葉市中央区中央 3-10-8

Tel. 043-221-2311 (代) / FAX. 043-221-2316 / <http://www.ccma-net.jp>

◎ JR 千葉駅東口より

- ・徒歩約15分
- ・バスのりば⑦より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」下車徒歩約3分
- ・千葉都市モノレール県庁前方面行「霞川公園駅」下車徒歩約5分

◎京成千葉中央駅東口より徒歩約10分

◎東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く

◎千葉市中央区役所と同じ建物です

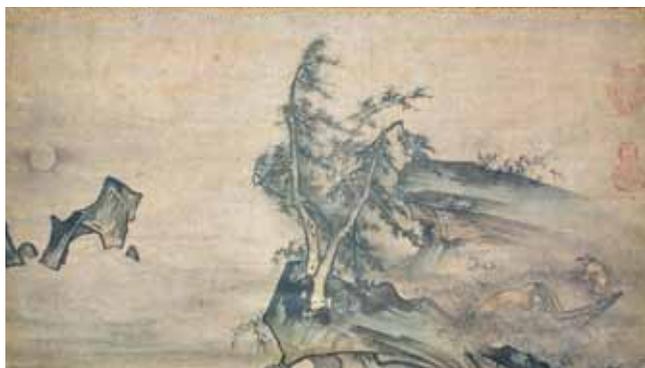
◎地下に区役所と共有の駐車場がありますが、混雑が予想されますので、なるべく公共の交通機関をご利用ください



千葉市美術館 プレスリリース

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介しますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。

開館20周年記念 ドラッカー・コレクション 珠玉の水墨画 —「マネジメントの父」が愛した日本の美



1. 雪村周継 《月夜独釣図》 室町時代 ドラッカー・コレクション



2. 柴庵 《柳燕・鶺鴒図》 双幅
室町時代
ドラッカー・コレクション



3. 海北友松 《翎毛図》六幅のうち
桃山時代
ドラッカー・コレクション



4. 谷文晁 《月夜白梅図》
江戸時代
ドラッカー・コレクション



5. 前嶋宗祐 《山水図》
室町時代
ドラッカー・コレクション



6. 式部輝忠 《溪流飛鴨図》
室町時代
※ドラッカーが1959年に初めて京都で
購入した作品の一つ
ドラッカー・コレクション

開館20周年記念 ドラッカー・コレクション 珠玉の水墨画 —「マネジメントの父」が愛した日本の美
広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■ 写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 行
FAX: 043-221-2316

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行予定日：
TEL：	発行部数：
FAX：	定価：
Email：	掲載予定コーナー名等：
画像到着希望日： 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例：5cm 四方、など)</small> ：

■ 画像データ申込（ご希望のデータの番号に○をつけてください。）

1. 雪村周継 《月夜独釣図》 室町時代 ドラッカー・コレクション
2. 柴庵 《柳燕・鶴鶴図》 双幅 室町時代 ドラッカー・コレクション
3. 海北友松 《翎毛図》六幅のうち 桃山時代 ドラッカー・コレクション
4. 谷文晁 《月夜白梅図》 江戸時代 ドラッカー・コレクション
5. 前嶋宗祐 《山水図》 室町時代 ドラッカー・コレクション
6. 式部輝忠 《溪流飛鴨図》 室町時代 ドラッカー・コレクション

■ プレゼント用招待券申込

（ご希望の場合はチェックをつけてください）

5 組 10 名様分 希望します。
（それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談下さい。）

チケット送付先
ご住所：〒

問い合わせ先

千葉市美術館 〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

Tel. 043-221-2311（代表）/ 043-221-2313（直通）

Fax. 043-221-2316

HP. <http://www.ccma-net.jp/>

担当学芸員：松尾知子

広報担当：磯野 愛